

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	東海財務局長
【提出日】	平成28年11月10日
【四半期会計期間】	第79期第2四半期（自 平成28年7月1日 至 平成28年9月30日）
【会社名】	日本プラスチック株式会社
【英訳名】	NIHON PLAST CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 須藤 亘
【本店の所在の場所】	静岡県富士宮市山宮3507番地15
【電話番号】	0544(58)6830（代表）
【事務連絡者氏名】	経理部長 野村 豊
【最寄りの連絡場所】	静岡県富士宮市山宮3507番地15
【電話番号】	0544(58)6830（代表）
【事務連絡者氏名】	経理部長 野村 豊
【縦覧に供する場所】	株式会社 東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第78期 第2四半期 連結累計期間	第79期 第2四半期 連結累計期間	第78期
会計期間	自平成27年4月1日 至平成27年9月30日	自平成28年4月1日 至平成28年9月30日	自平成27年4月1日 至平成28年3月31日
売上高 (百万円)	68,642	63,700	139,183
経常利益 (百万円)	1,670	1,834	3,517
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益 (百万円)	1,263	1,381	2,115
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	1,583	2,312	1,002
純資産額 (百万円)	24,426	21,359	23,763
総資産額 (百万円)	85,886	72,733	78,389
1株当たり四半期(当期)純利 益金額 (円)	76.88	84.04	128.69
潜在株式調整後1株当たり四半 期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	28.4	29.3	30.3
営業活動によるキャッシュ・フ ロー (百万円)	2,412	2,351	10,251
投資活動によるキャッシュ・フ ロー (百万円)	1,985	2,368	5,526
財務活動によるキャッシュ・フ ロー (百万円)	3,103	2,990	10,217
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高 (百万円)	9,266	8,593	6,512

回次	第78期 第2四半期 連結会計期間	第79期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自平成27年7月1日 至平成27年9月30日	自平成28年7月1日 至平成28年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	29.99	43.98

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額につきましては、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益や雇用・所得環境に改善の動きが見られましたが、個人消費の低迷や急速な円高の進行等もあり、依然として先行き不透明な状況にあります。また、海外においても、新興国経済の下振れリスクや英国のEU離脱の影響等により先行き不透明な状況となっております。

このような状況の中、当第2四半期連結累計期間における売上高は、為替換算による売上高の減少影響などにより前年同期比7.2%減の63,700百万円となりました。損益面では、車種構成差及び材料費合理化等により営業利益は前年同期比24.5%増の2,396百万円、為替差損545百万円の計上により経常利益は前年同期比9.8%増の1,834百万円となりました。また、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期比9.3%増の1,381百万円となりました。

日本

国内の売上高は、主要得意先の増産影響により16,314百万円と前年同期に比べ695百万円(4.4%)の増収となりました。セグメント損失は、諸経費の増加により464百万円(前年同期は197百万円のセグメント利益)となりました。

北米

北米の売上高は、為替換算による売上減少影響や主要得意先の減産影響により34,889百万円と前年同期に比べ4,520百万円(11.4%)の減収となりました。セグメント利益は、車種構成差及び合理化による材料費率改善により1,617百万円と前年同期に比べ943百万円(140.0%)の増益となりました。

中国

中国の売上高は、為替換算による売上減少影響はあったものの主要得意先の増産影響により10,879百万円と前年同期に比べ88百万円(0.8%)の増収となりました。セグメント利益は、増収影響及び諸経費の減少等により1,050百万円と前年同期に比べ186百万円(21.5%)の増益となりました。

東南アジア

東南アジアの売上高は、為替換算による売上減少影響や主要得意先の減産影響により1,615百万円と前年同期に比べ1,205百万円(42.7%)の減収となりました。セグメント利益は、車種構成差による材料費率改善により256百万円と前年同期に比べ64百万円(33.3%)の増益となりました。

なお、売上高は消費税抜きで記載しております。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は前連結会計年度末に比べ2,081百万円(31.9%)増加し、当第2四半期連結会計期間末には8,593百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果獲得した資金は2,351百万円(前年同期は2,412百万円の獲得)となりました。これは主に、減価償却費2,406百万円をはじめ、税金等調整前四半期純利益1,834百万円等の資金増加要因が、たな卸資産の増加額778百万円及び法人税等の支払額486百万円等の資金減少要因を上回ったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は2,368百万円(前年同期は1,985百万円の使用)となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出2,335百万円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果獲得した資金は2,990百万円(前年同期は3,103百万円の使用)となりました。これは主に、長期借入れによる収入3,649百万円をはじめ、短期借入金の増減額2,359百万円等の資金増加要因が、長期借入金の返済による支出2,709百万円等の資金減少要因を上回ったことによるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題について重要な変更等はありません。

(4) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は777百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	42,400,000
計	42,400,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成28年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成28年11月10日)	上場金融商品取引所名又は 登録認可金融商品取引 業協会名	内容
普通株式	19,410,000	19,410,000	東京証券取引所市場第二部	単元株式数100株
計	19,410,000	19,410,000		

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成28年7月1日～ 平成28年9月30日		19,410,000		3,206		802

(6) 【大株主の状況】

平成28年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
広瀬 信	静岡県富士市	1,478,000	7.61
東京中小企業投資育成株式会社	東京都渋谷区渋谷3丁目29番22号	1,429,000	7.36
株式会社ダイセル	大阪府大阪市北区大深町3番1号	1,000,000	5.15
日本トラスティ・サービス信託 銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8番11号	856,600	4.41
有限会社コウシン	静岡県富士市青葉町422番地	664,000	3.42
BNP PARIBAS SECURITIES SERVICES LUXEMBOURG/JASDEC/FIM/LUXEMBOURG FUNDS/UCITS ASSETS (常任代理人 香港上海銀行東京支店 カストディ業務部)	33 RUE DE GASPERICH, L - 5826 HOWALD - HESPERANGE, LUXEMBOURG (東京都中央区日本橋3丁目11番1号)	467,200	2.40
日本プラスト日峰持株会	静岡県富士宮市山宮3507番地15	396,600	2.04
伊藤忠プラスチック株式会社	東京都渋谷区道玄坂1丁目12番1号	317,200	1.63
第一生命保険株式会社	東京都千代田区有楽町1丁目13番1号	310,000	1.59
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区大手町1丁目5番5号	309,000	1.59
計		7,227,600	37.23

(注) 1. 当社は、自己株式2,957,726株を保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。

2. 「日本プラスト日峰持株会の所有株式数には、会社法施行規則第67条の規定により議決権の行使が制限されている株式が47,700株含まれております。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成28年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 2,957,700		
	(相互保有株式) 普通株式 47,700		
完全議決権株式(その他)	普通株式 16,398,800	163,988	
単元未満株式	普通株式 5,800		
発行済株式総数	19,410,000		
総株主の議決権		163,988	

(注) 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が4,000株(議決権40個)含まれております。

【自己株式等】

平成28年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) 日本プラスト株式会社	静岡県富士宮市山宮3507 番地15	2,957,700		2,957,700	15.23
(相互保有株式) 東泉プラスト株式会社	静岡県富士市島田町1丁 目168		300	300	0.00
日本プラスト運輸株式会社	静岡県富士市伝法949-31 番地		47,400	47,400	0.24
計		2,957,700	47,700	3,005,400	15.48

(注) 他人名義で所有している理由等

所有理由	名義人の氏名又は名称	名義人の住所
加入持株会における共有持分数	日本プラスト日峰持株会	静岡県富士宮市山宮3507番地15

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成28年7月1日から平成28年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成28年4月1日から平成28年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,512	8,593
受取手形及び売掛金	18,944	16,078
製品	1,514	1,690
仕掛品	1,044	1,065
原材料及び貯蔵品	9,940	9,088
繰延税金資産	308	299
その他	2,678	2,014
貸倒引当金	2	2
流動資産合計	40,940	38,828
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	10,957	9,580
機械装置及び運搬具(純額)	10,733	9,080
工具、器具及び備品(純額)	3,231	3,549
土地	4,511	4,389
その他(純額)	2,696	2,154
有形固定資産合計	32,129	28,754
無形固定資産		
のれん	56	46
特許権	812	750
その他	1,108	989
無形固定資産合計	1,976	1,786
投資その他の資産		
投資有価証券	2,485	2,393
繰延税金資産	269	440
その他	708	650
貸倒引当金	120	120
投資その他の資産合計	3,343	3,364
固定資産合計	37,449	33,905
資産合計	78,389	72,733

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	14,883	13,012
短期借入金	11,905	12,962
1年内返済予定の長期借入金	5,056	4,785
1年内償還予定の社債	340	340
未払法人税等	366	206
賞与引当金	832	666
役員賞与引当金	87	-
製品保証引当金	104	90
その他	6,472	4,471
流動負債合計	40,049	36,534
固定負債		
社債	340	170
長期借入金	10,076	10,655
退職給付に係る負債	3,382	3,254
役員退職慰労引当金	472	489
その他	305	270
固定負債合計	14,577	14,839
負債合計	54,626	51,374
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,206	3,206
資本剰余金	4,127	4,127
利益剰余金	19,119	20,410
自己株式	1,806	1,807
株主資本合計	24,646	25,937
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,046	875
為替換算調整勘定	1,900	5,425
退職給付に係る調整累計額	28	26
その他の包括利益累計額合計	883	4,577
純資産合計	23,763	21,359
負債純資産合計	78,389	72,733

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位 : 百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
売上高	68,642	63,700
売上原価	62,912	57,415
売上総利益	5,730	6,284
販売費及び一般管理費	3,805	3,888
営業利益	1,924	2,396
営業外収益		
受取利息	33	35
受取配当金	26	26
投資不動産賃貸料	32	32
持分法による投資利益	4	9
雑収入	184	199
営業外収益合計	281	304
営業外費用		
支払利息	277	209
為替差損	109	545
雑損失	148	111
営業外費用合計	535	865
経常利益	1,670	1,834
特別利益		
投資有価証券売却益	29	-
特別利益合計	29	-
税金等調整前四半期純利益	1,699	1,834
法人税等	436	453
四半期純利益	1,263	1,381
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,263	1,381

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
四半期純利益	1,263	1,381
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	22	171
為替換算調整勘定	339	3,524
退職給付に係る調整額	2	1
その他の包括利益合計	319	3,694
四半期包括利益	1,583	2,312
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,583	2,312
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,699	1,834
減価償却費	2,464	2,406
のれん償却額	9	9
貸倒引当金の増減額(は減少)	112	-
賞与引当金の増減額(は減少)	2	166
役員賞与引当金の増減額(は減少)	60	87
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	88	198
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	1	16
製品保証引当金の増減額(は減少)	528	0
受取利息及び受取配当金	60	62
支払利息	277	209
持分法による投資損益(は益)	4	9
有形固定資産処分損益(は益)	7	30
投資有価証券売却損益(は益)	29	-
売上債権の増減額(は増加)	124	436
たな卸資産の増減額(は増加)	1,179	778
仕入債務の増減額(は減少)	1,919	147
未払消費税等の増減額(は減少)	80	43
その他	171	501
小計	2,844	2,975
利息及び配当金の受取額	62	63
利息の支払額	243	200
法人税等の支払額	251	486
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,412	2,351
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	2,615	2,335
有形固定資産の売却による収入	45	125
無形固定資産の取得による支出	6	77
投資有価証券の取得による支出	6	138
投資有価証券の売却による収入	487	-
貸付金の回収による収入	7	4
その他	102	53
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,985	2,368
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の増減額(は減少)	2,835	2,359
長期借入れによる収入	2,482	3,649
長期借入金の返済による支出	2,455	2,709
社債の償還による支出	170	170
自己株式の取得による支出	0	-
配当金の支払額	82	90
リース債務の返済による支出	31	41
その他	11	6
財務活動によるキャッシュ・フロー	3,103	2,990
現金及び現金同等物に係る換算差額	93	892
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	2,583	2,081
現金及び現金同等物の期首残高	11,849	6,512
現金及び現金同等物の四半期末残高	9,266	8,593

【注記事項】

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(追加情報)

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期連結会計期間から適用しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 当社は、資金調達の機動性確保及び安定性の確保を目的として金融機関3行とコミットメントライン契約を締結しております。これらの契約に基づく借入未実行残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
当該コミットメントライン契約の総額	4,000百万円	4,000百万円
借入実行残高	-	-
差引額	4,000	4,000

2 偶発債務

当社及び一部の連結子会社が過去に製造した部品を組み込んだ自動車の市場回収措置に伴う費用等に関して現在調査中であり、連結財務諸表等に与える影響額を見積ることは現時点において困難であります。

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
荷造材料、運搬費	909百万円	1,100百万円
役員及び従業員給料手当	957	889
賞与引当金繰入額	97	78
役員賞与引当金繰入額	37	-
退職給付費用	43	38
役員退職慰労引当金繰入額	21	20
減価償却費	242	213
貸倒引当金繰入額	112	-

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
現金及び預金勘定	9,266百万円	8,593百万円
現金及び現金同等物	9,266	8,593

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年9月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年6月26日 定時株主総会	普通株式	82	5.00	平成27年3月31日	平成27年6月29日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年11月6日 取締役会	普通株式	82	5.00	平成27年9月30日	平成27年12月8日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年9月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年6月29日 定時株主総会	普通株式	90	5.50	平成28年3月31日	平成28年6月30日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年11月10日 取締役会	普通株式	90	5.50	平成28年9月30日	平成28年12月12日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				合計
	日本	北米	中国	東南アジア	
売上高					
外部顧客への売上高	15,619	39,410	10,791	2,821	68,642
セグメント間の内部売上高 又は振替高	3,569	64	826	2,528	6,989
計	19,188	39,474	11,618	5,350	75,631
セグメント利益	197	673	864	192	1,927

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の
主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	1,927
セグメント間取引消去	46
その他の調整	44
四半期連結損益計算書の営業利益	1,924

当第2四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				合計
	日本	北米	中国	東南アジア	
売上高					
外部顧客への売上高	16,314	34,889	10,879	1,615	63,700
セグメント間の内部売上高 又は振替高	2,910	257	1,299	2,880	7,348
計	19,225	35,147	12,179	4,496	71,048
セグメント利益 又はセグメント損失()	464	1,617	1,050	256	2,459

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の
主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	2,459
セグメント間取引消去	64
その他の調整	1
四半期連結損益計算書の営業利益	2,396

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	76円88銭	84円04銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額 (百万円)	1,263	1,381
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純 利益金額(百万円)	1,263	1,381
普通株式の期中平均株式数(千株)	16,439	16,438

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

(中間配当)

第79期(平成28年4月1日から平成29年3月31日まで)中間配当については、平成28年11月10日開催の取締役会において、平成28年9月30日現在の株主名簿に記載または記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

中間配当金の総額	90百万円
1株当たりの中間配当金	5円50銭
支払請求の効力発生日及び支払開始日	平成28年12月12日

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成28年11月10日

日本プラスチック株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	福 井 淳
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	齋 藤 英 喜

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている日本プラスチック株式会社の平成28年4月1日から平成29年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成28年7月1日から平成28年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成28年4月1日から平成28年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、日本プラスチック株式会社及び連結子会社の平成28年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。